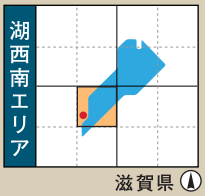
史跡
国指定

穴太廃寺跡
あのうはいじあと

大津市穴太二丁目　平成9年9月11日指定



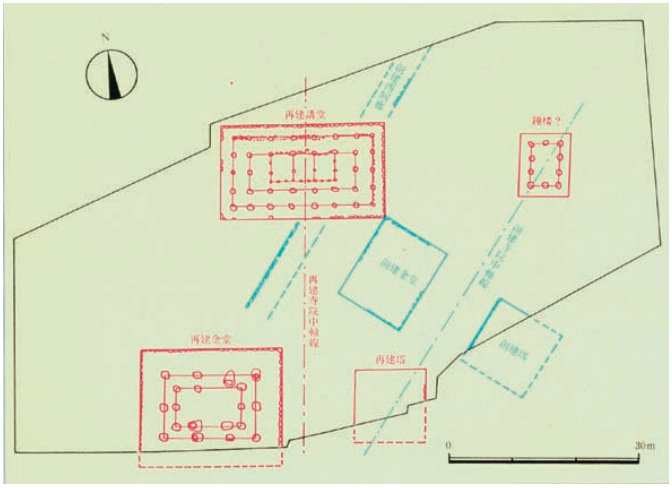
穴太廃寺は、白鳳期を中心として平安時代まで存続した寺院で、途中で方位を変えて、全面的な伽藍（がらん）の建替えが行われました。再建された寺院の主軸は、大津京と方位が同じであることから、南滋賀町廃寺や崇福寺と同様、大津京と密接な関わりのある寺院であったと考えられます。

当時のできごと	
668年	天智天皇即位
672年	壬申の乱
1017年	藤原道長が太政大臣となる

概説

穴太廃寺跡からは、2時期の寺院の伽藍が見つかっています。創建期の伽藍は完成していたかどうかは定かではありませんが、穴太に残る、古い地割りに沿って建てられた、法起寺式もしくは川原寺式の伽藍の寺院で、大津宮時代に建立されました。それからあまり時期が経たないうちに方位を大津宮にそろえ、法起寺式の伽藍で建て替えられます。大津京の造営（667～672年）に伴い、急遽建て替える必要が生じたためでしょう。この寺院は平安時代の中頃まで続いたようです。

中大兄皇子は、663年に白村江（はくすきのえ）の戦いで百済（くだら）に敗れ、高まる外国からの脅威を避けるため都を近江に遷します。このような危機に直面し、首都を防衛するため、要所に寺院を配置しました。厚い築地塀に囲まれた寺院は、城郭の役割を果たしていたのです。穴太廃寺は畿内と日本海を結ぶ、後世の北陸道を押さえる役割を持っていたのかも知れません。



穴太廃寺主要伽藍

寺域の広さ

創建寺院		再建寺院	
東西	約216m（2町）	東西	約240m（2町強）
南北	約216m（2町）	南北	約216m（2町）

創建寺院の遺構

創建期の遺構としては、中軸の東に塔、西に金堂が並び、その北に講堂の可能性のある建物が見つかっています。また、金堂の西からは回廊の跡が見つかっています。これらの遺構は建て替えの際に、取り壊されて整地されているので、その詳細は不明ですが、遺構の状況や出土遺物から、この寺院は完全には完成していなかった可能性があります。



再建金堂跡



再建講堂跡

再建寺院の遺構

創建期の遺構を壊して造られた伽藍で、比較的良好に残っています。伽藍の配置は、主軸の西に金堂、東に塔、北に講堂が、東には鐘楼と考えられる建物を配置します。

金堂は、瓦をきれいに積み上げた基壇の上に建ち、3間×3間の身舎（もや）の4面に廂（ひさし）と呼ばれる張り出しを巡らした建物で、類例の少ない構造です。

講堂は、見つかった建物跡では最も残りが良く、その構造もよくわかります。建物は5間×2間の身舎の四方に廂を巡らした7間×4間の構造となっています。身舎の中からは仏像を安置する須弥壇（しゅみだん）の跡が確認されました。



穴太廃寺跡検出遺構



穴太廃寺跡検出遺構

［出土遺物］

再建伽藍からは様々な遺物が見つかっています。講堂の周辺からは青銅の風鐸、金箔磚仏、塑像螺髪、朝鮮からもたらされたと考えられる銀製の押出仏などが出土しています。また、金堂の周辺からは「庚寅年」「壬辰年六月」と刻まれた瓦が出土しており、それぞれ690年、692年に当たると考えられています。



銀製押出仏（菩薩像）

関連する文化財

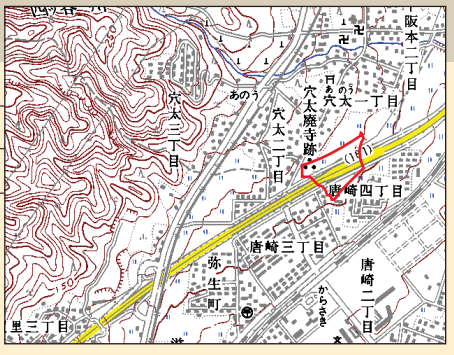
近江大津宮錦織遺跡（大津市）	学習シートNo.014
南滋賀町廃寺跡（大津市）	学習シートNo.006
崇福寺跡（大津市）	学習シートNo.005
衣川廃寺跡（新旭町）	学習シートNo.012

もっと深く知りたい

大津市歴史博物館	☎077-521-2100	大津市御陵町2-2
大津市埋蔵文化財調査センター	☎077-527-1170	大津市滋賀里1-17-23
滋賀県埋蔵文化財センター	☎077-548-9681	大津市瀬田南大萱町1732-2

穴太廃寺跡へのアクセス

JR湖西線　唐崎駅下車
京阪電鉄石坂線　穴太駅下車



【参考文献】〔穴太遺跡発掘調査報告書〕滋賀県教育委員会　〔近江の古代を掘る〕大津市歴史博物館
〔20世紀近江発掘ベスト10展〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月